

# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 川部会編 vol. 1



発行日：平成 26 年 5 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆今年度、1 回目の川部会WGが開催されました！

矢作川流域圏懇談会も 5 年目に突入しました。今年度初めての川部会の開催とあって、多方面から 25 名の参加をいただき、川部会WGの今年度の活動計画や市民企画会議からの提案、家下川モデルの湛水防除事業について、意見交換を行いました。



日時：平成 26 年 5 月 30 日（金）18:00~20:40  
会議場所：豊田市職員会館 2F 第 1 会議室  
参加者：25 名（事務局含む）

## ◆主な意見交換内容

### 1. 本日の話し合いで決まったこと



#### ■市民企画会議からの報告及び提案について

- 流域連携の各テーマの担当者は、以下のとおりに決定しました。  
ゴミ・流木：内田氏、土砂：矢作川漁協関係の方（暫定\*）、木づかい：光岡氏  
（※矢作川漁協関係の方には、事務局から依頼予定）
- 上記3テーマの他、山部会とは山の植生による水源涵養量について、海部会とは河口部分（干潟環境やヨシ原環境など）について、連携して考えていく必要がある。



#### ■家下川モデル：湛水防除事業（上郷2期地区）について

- 湛水防除事業について、設計がまだ確定している状況ではないことがわかり、概略設計段階の検討内容で、年末頃を目標に豊田加茂農林水産事務所と意見交換を行うこととした。
- 川部会WGとして、水面の高さがどういう形が望ましいかについて、今後、検討を進める必要がある。
- 生き物の移動障害について、豊田加茂農林水産事務所だけでは、解決できない課題であることがはっきりした。
- 今後、豊田土地改良区（承水溝）、豊田市公園課（長池）、豊田加茂建設事務所（家下川 - 承水溝の接続）などの、関係団体（管理者）と意見交換できるとよい。



#### ■今年度の活動計画について

- 当面のスケジュールは、参考資料4（6月本川モデル、7月地先モデル、8月本川モデル）のとおりとする。
- 6月本川モデルは、6月27日午後13:00~17:00（予定）とし、白浜工区や渡合地区の現地確認と意見交換を行う。
- 7月地先モデルは、7月11日（金）午後（予定）とし、岡崎市、安城市の方で現地を見ることを想定する。
- 家下川モデルは、9月開催とし、関係団体（豊田市公園課など）と意見交換を行いながら、望ましい形について検討する。

## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



## 2. 意見交換



### ●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

#### (1) 市民企画会議からの報告及び提案について

##### 市民企画会議からの報告及び提案について、松井氏より報告いただいた。

- ・勉強会の開催が7月1日豊田市職員会館で、名古屋大学辻本先生からお話しいただくことになった。(事務局)
- ・流域連携の担当者には、専門性は求めているが、山・海はある程度専門性のある人が選ばれた。(事務局)
- ・川にとって土砂が最も重要であり、漁協関係の方ははずせないのではないか。(内田)
- ・3つのテーマ以外に、流域連携の取り組みになるテーマはあるか。(事務局)
- ・流域を流れていくものとして、水と物質と土砂と人の意識が考えられる。水量、水質の問題はあるが、切実な問題として拳がっていないのであれば、その3つのテーマでよいのではないか。(鷲見)
- ・活動のノウハウの共有がテーマとしてあってもよいのではないか。(鷲見)
- ・矢作川は水量が少ないことで有名で、それによる弊害は多いと思う。山の植生がどうなると涵養量が多くなるか。また、海側へは、干潟環境、ヨシ原環境について、海と連携して考えていく必要がある。(本守)

#### (2) 家下川 湛水防除事業(上郷2期地区)について

##### 豊田加茂農林事務所の山田氏、松澤氏より、採択された湛水防除事業について、説明を伺った。

- ・2つの排水機場を統合して1ヶ所に整備する予定で、上郷第2排水機場の撤去、新機場の整備、上郷柳川瀬排水機場の撤去というステップで事業を進める予定である。工期は、平成26年度～平成32年で、平成27年に第2排水機場の一部について撤去開始を予定している。(松澤)
- ・承水溝については、改修による影響はあるか。また、長池のつながり部分は、どうなるか。(阿部)
- ・承水溝・長池の流入口へどう影響するか、まだ今後の検討である。(山田)
- ・承水溝・長池の段差は、魚の移動阻害の一つで、理想の方法はないかと部会で絵を書いて提案していくべきと思う。(光岡)
- ・公園からの土砂が承水溝にかなり溜まっている。全面的でなくとも、工夫しながら土砂を浚渫できると、生物の棲みかになる。ポンプ稼働時の水流を使って、浚渫した土砂の形状が維持できるとよい。(阿部)
- ・土砂が溜まっているというのは、維持管理の範囲なので、湛水防除事業では浚渫自体が難しいが、遊水池の浚渫ができる適正化事業というものがあ、その事業であれば可能性はあるのではないか。(山田)
- ・実施設計は、年度末に成果が出る。年末頃に概略設計段階の検討結果で説明し、意見交換することは可能である。(鈴木)
- ・今回は、長池を管理している豊田市公園課に来てもらってはどうか?(内田)

#### (3) 今年度の活動計画について

- ・6月本川モデルについて、白浜工区付近の状況が少しずつ変化してきており、現地確認してもらおうと面白いと思う。また、渡合地区は、瀬替えをした後のワンドがよい状態になってきている。今であれば、産卵床としてなど実験ヤードとして利用できる。(小林)
- ・WGへの参加者を増やしていくという意味でも、モデルを出た取り組みが今後必要という議論があった。(事務局)
- ・地先モデルでは、以前にいろんな活動団体を巻き込んでいきたいという話があった。きっかけとしてアンケートは良いと思うが、その後の活動団体が抱えている課題なども検討の対象にできると良い。(光岡)
- ・次回地先モデルは、岡崎市、安城市の方で現地を見ることを想定する。細かい場所については、メールでのやりとりとする。(内田)
- ・活動団体に簡単なアンケートを出してはどうか?(本守)

## 今後の川部会WGの予定



### ■第18回(本川モデル)

日時：平成26年6月27日(火)13:00～17:00

場所：豊田市職員会館(予定)

内容：現地確認＋会議

- ・白浜工区の変化状況について
- ・渡合地区対岸等の状況について

### ■第19回(地先モデル)

日時：平成26年7月11日(金)午後(予定)

場所：未定

内容：現地確認＋会議







発行日：平成26年7月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

### ◆第18回川部会WGを開催しました！

第18回川部会WGでは、今年度1回目の本川モデルの検討を行いました。現地調査と意見交換の2部構成で、白浜工区、加茂川合流点段差、渡合対岸地区について話し合いました。

日時：平成26年6月27日（金）13:00～17:00

会議場所：豊田市職員会館2F 第1会議室

参加者：23名（事務局含む）



### ◆主な意見交換内容

#### 1. 意見交換

##### ■市民企画会議からの報告及び提案について

- 都市の河畔林について、河川協力団体に位置付けた矢作川森林塾のこれまでの活動内容、今後の活動の方向性について報告いただいた。また、白浜工区を対象にした研究の方向性について、鷲見先生より報告いただいた。
- 加茂川の段差改善について、今ある土砂を活用して、木材を使った魚道設置の提案があった。河川管理上の横断施設でもあることから、河川管理者でも設置の可否、方法について検討し、関係者間で調整を図ることとする。
- 渡合対岸地区について、どういう方向性で検討するか、矢作川漁協と調整する必要がある。
- 次回本川モデルWGでは、アユ釣りのメッカである豊田大橋～久澄橋の瀬・淵を現地調査する。可能であれば、矢作川漁協に出席してもらう。

#### 2. 現地調査

矢作川本川の白浜工区、渡合対岸地区、加茂川合流点段差について、昨年度からの変化状況や活動効果、現状の課題等を確認しました。



白浜工区



渡合対岸地区



加茂川合流点段差

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

### (1) 白浜工区

#### ■鷺見先生より今後の研究の方向性に説明いただいた。

- 白浜工区の自噴池について、0.3L/分、20L/日程度の湧出量を確認した。湧水の出所はまだわかっていない。
- 地形測量を行っており、洪水規模によって変化する地形状況を把握していく予定である。表層の地形と玉石地形（地盤の固い層）の横断状況を把握している。表層の砂部分は動きやすい層になる。（鷺見）

#### ■矢作川森林塾の碓氏より、都市の河畔林での矢作川森林塾の活動について、報告をいただいた。

- 都市林をつくっていききたい。明治用水の神社の林のようなイメージである。実生のナツツバキやオニグルミの林などがあり、自然に生えてくる木を大きくしていこうと考えている。（碓）
- 白浜工区の整備は、まだ整備過程であると考えており、久澄橋下流について玉石の多いアユ釣りの環境としていい場所にしていききたい。（碓）
- 加茂川水門下流は、子ども達が遊べる場所にしたい。（碓）
- 一つ問題があって、活動団体では人力で実施するのが精いっぱいであり、河床の掘削など重機が必要なところを誰がやるかという話がある。（碓）
- 矢作川森林塾をアドプト制度から一歩進めて、河川協力団体に位置付けた。機材、実費程度の提供はできればよいと考えている。（事務局）
- より多くの人にきてもらいたいという視点から考える必要がある。魚の個体数や魚種が減ってきているか、また、河川利用者が減ってきているかなどの記録はあるか？（光岡）
  - ▶ 鳥や魚、昆虫などこれから調査していく予定で、豊田東高校の学生と一緒にまずは図鑑を作りたいと考えている。（碓）
  - ▶ 毎年、親子釣り教室をやっているのので、データをもらえるかもしれない。（事務局）
- 都市林が形になるまでに、5年～10年かかると思うので、その成果を全国発信できるようになればよい。（碓）



### (2) 加茂川の段差改善について

- 加茂川の段差改善については、とにかくやってみて、ダメなところはトライ＆エラーで改善していこうと考えている。（碓）
- なるべく左岸側に魚道を寄せて、右岸側は今ある土砂をならして、子どもが寄りつける場所にしたい。（中田）
- 魚道を木材で作ったときの水密性が心配で、遮水シートを設置することも考えられる。（鷺見）
  - ▶ 木材の隙間は、目詰まりしてくるのではないかと期待している。（中田）
- 魚道設置は、どういう魚を対象にしているか。（光岡）
  - ▶ 河川愛護会等の活動団体があり、加茂川の上流域にも魚が供給できるようにしたいという思いはある。（碓）
- 普段のときは、矢作川本川とどのくらいのつながりがあるか。出水の時に、見るチャンスがあるとよい。
- 加茂川水門は、どういう状況で閉めるか。
  - ▶ 去年の18号台風時には、水門を閉める手前くらいであった。
  - ▶ 本川の魚が避難に入ってくるのではないかと。（小澤）
- 見えるところに魚道があることで、子どもたちが関心を持つきっかけにもなる。（碓）
- 木材の流失が問題となる可能性があり、ワイヤーのアンカーを付けてはどうか。（鷺見）
- 平常時に本川とつながっている支川とそうでない支川では、魚の個体数が違う。（光岡）
- 魚道は河川管理上の横断施設でもあることから、事務局でも設置の可否、方法について検討する。（事務局）



### (3) 渡合対岸地区について

- 矢作川漁業協同組合といっしょに検討するきっかけになり得るので、モデルとして検討してはどうか。（近藤）
- アユの産卵床ともなる場所である。
- 低水路線形が、そのまま蛇行してしまっている。（鷺見）
- 元々、縮流対策と矢作川漁協の産卵床の考え方を考慮して、瀬替えをしている場所である。（事務局）
- 普段の機能をどうするかという話もあり、議論を仕分けて考えた方がよい。（鷺見）
- 今後、どういう方向性で検討するかについては、矢作川漁協と調整できると良い。

### (4) 振り返り

**よかったと思うこと：**意見の違いが明らかになった。/矢作川のことについての対策や考えなどのことがわかって勉強になった。/官民一体でやりたい事を話し合うのは、良い事だと思った。/今後、改良する時に話し合っ、より良い方向が出ると思った。/白浜工区は、しっかりとこれから調査して推移を見れるのうれしい。

**よくなかったと思うこと：**どの現場でも、もう少しゆっくり全体を観察して、それから説明を聞くのもよいか、と思います。  
**本川モデルの取り組み・アイデアなど：**漁協を引き戻すという、本守さんの意見に賛成する。/矢作川は、自然を多く保ち、きれいにあゆの住める川であった方がよいと思いました。

## 今後の川部会 WG の予定

### ■第19回（地先モデル）

日時：平成26年7月11日（金）13:00～18:00  
場所：矢作古川分派施設、岡崎市ホタル学校の現状確認  
内容：現地確認

### ■第20回（本川モデル）

日時：平成26年8月25日（月）（予定）  
場所：豊田大橋～久住橋の瀬・淵の現地調査、検討  
内容：現地確認＋会議







発行日：平成26年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

### ◆第19回川部会WGを開催しました！

第19回川部会WGでは、今年度2回目の本川モデルの検討を行いました。現地調査と意見交換の2部構成で、瀬・淵の現状と課題、今後の方向性について話し合いました。

日時：平成26年8月25日（月）13:00～16:30

会議場所：豊田市職員会館2F 第1会議室

参加者：28名（事務局含む）



### ◆WGで議論した主な内容

- 現地調査では、水位が平常時より高かったものの、久澄橋下流に2つの瀬の存在を確認することができた。（橋直下の瀬では、アユ釣り客あり）
- 久澄橋下流では、瀬をつくる粒径の大きい石が昔はあったが、今は不足している。明治用水頭首工の湛水区間との境界が存在し、湛水区間の河床は砂成分である。
- 矢作川漁協が考えている人為的なかさ上げは、洪水の流下能力を下げ、低水路を固定してしまう点で望ましくないとこのWGでは考えるが、湛水区間との境界付近に位置する久澄橋下流の瀬は活かせる可能性があることを確認した。
- 豊田市の矢作川環境整備計画の検討に合わせて、生物の生息環境を重視するエリア、利用を重視するエリアについて、今後、考えていく必要がある。

### ◆現地調査の主な内容

#### 1. 現地調査



久澄橋上に移動して、久澄橋付近の瀬の状況を確認しながら、矢作川漁協の木戸理事から近年の瀬の状況と課題について説明を伺いました。

- 久澄橋下流の瀬の勢いがなくなりつつあり、大きな手術をしないと元の健康な川には戻れないと考えている。
- 昔は、竜宮橋上流までアユ釣り場であった。河床低下で明治用水頭首工の湛水区間が広がり、久澄橋の少し下流までは、アユが好む石はあるが、それより下流には砂しかない。



#### 2. 意見交換



- ・手術とはどのようなものか。（光岡） （●意見 ▶ 回答）
  - 下流から順に大きな石などで瀬型を組んで、落差工のようにしていくことを考えている。（木戸）
- ・川の健康な状態とはどのようなものか。（山本）
  - 交互砂州のような区間では、瀬の繰り返しがあることが大事である。ある程度の間隔で瀬が担保されているとよい。（鷺見）
- ・アユの生息環境を確保するには、何が必要か。（鷺見）
  - 必ずしも水深が浅い必要はなく、光が河床に届き、えさとなる藻が石に付着する環境が必要（木戸）
- ・現在実施されている一様な河道断面（200mピッチ）や定点による検討では、瀬淵形状を計画に反映することは難しい。（鷺見）

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。



## ◆ 主な意見交換内容 (・意見 ▶回答)

### ●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

- 現地調査では、アユの話が中心であったが、生物の棲みやすさとイコールか。治水上の問題もあり、漁協が提案するように単に河床を上げればよいということにはならないのではないか。(光岡)
- 河床を上げる場合、高水敷掘削規模を大きくする必要があると思うが、河道掘削に自由度はあるか。(内田)
- 元々瀬がなくなった原因は何かを、まずは把握する必要があると考えている。18号台風の影響を見るために、横断測量を検討している。(小林)
- その測量結果を見て検討したいと思うが、今の形状を大幅に変えることは難しいと考えている。(事務局)
- 漁協から久澄橋下流では玉石が見えないという話であり、上流では砂成分が必要だという話であったと思うが、どのように考えればよいか。(光岡)
- 明治用水頭首工付近に砂成分が多くなるのは仕方ないことで、どの区間まで玉石を求めらるか。久澄橋の直下流、あるいは、そのもう一つ下流の瀬までは、確保できる可能性がある。(鷺見)
- 河床材料調査は、瀬を対象にしているわけではなく、その区間の代表的な粒径の調査結果となることから、河川のおおまかな特性を捉えるには必要であるが、その結果が、アユ釣り人の局所的な状況の話と合わないことはよくある。いろんな調査方法・調査結果を組み合わせないと、実態は見えてこない。(内田)
- 瀬淵を見るためには、リーチスケールの視点が必要で、今の横断測量や粒径調査はそれに対応できていないのが現状である。(鷺見)
- 人為的に川をどうにかしようとしても、元に戻ろうとする可能性が大きく、思うようにはいかないのではないか。(小澤)
- 矢作川の河床形態の変遷を見ると、2000年頃に現在の形状の原型ができたと考えられ、東海豪雨以降の固定した瀬の状況は、容易には動かないのではないか。(内田)
- アユは産卵を支川でしているの、玉石の環境が本川のどこかにあれば十分なのではないか。



### (1) 漁協が求める瀬について

- 39.2 km付近に潜っている瀬は、交互砂州の瀬の位置にあるので維持できる可能性はあるが、人為的に手を入れる必要があるかは今後の検討が必要である。(鷺見)
- 漁協の提案するような瀬の部分をかさ上げしてメリハリをつけることに対して、どう考えるか。(内田)
- 変化に富んでいることについては、いろんな魚にとって大切である。(光岡)
- 高水敷の掘削が、高橋下流のように瀬淵の明瞭化に貢献すれば、今、潜ってしまっている瀬を活かせる可能性はある。(鷺見)
- 明治用水頭首工の制御水位は、ゲート操作の運用ルールなどで変更できる可能性はあるか。(鷺見)



### (2) 本川モデル(鷺ノ首~平戸橋下流)について

- 漁協とだいぶ考え方が違うことは見えたと思う。まず、懇談会のメンバーでどう考えるか議論できればよい。(内田)
- 河道掘削を行う必要がある。隣接する高水敷を切り下げるのが基本になっている。まず、久澄橋直下の右岸高水敷切り下げはどう考えるか。(内田)
- 河道整備は、下流から優先的に実施しているので、本川モデル付近まで到達していない。白浜工区の右岸の樹木伐採は実施する可能性がある。また、土砂関係については、年内に、ある程度の目途が立つと聞いている。(事務局)
- 上流のダム群をマサが通過しているかどうかの議論があったが、越戸ダム下流を確認したところ、先日の出水でも一部マサは通過しているようであることは確認できた。(鷺見)
- 白浜工区のワンドについて、人為的な手を入れなくて変化を見ていってはどうか。(小澤)
- 台風18号でワンドが埋没してしまったため、簡易に重機を入れたが、順応的管理を念頭に極力手を入れないようにしている。(小林)
- 砂州上の列状に繁茂し始めたヤナギに関しては、伐採するかどうか判断する必要がある。(鷺見)
- 低水護岸整備について、白浜工区をモデルに、こういう形がいいというものを出せるとよい。(光岡)
- 矢作川研究所を中心に、豊田市としてあるべき矢作川の姿を考えたいということで、検討会を開催していく予定である。(鈴木)
- 人為的なかさ上げは、本川モデル全体としても望まないというのが、基本的な考え方であり、生物の生息場所を見ていくのか、人の利用を重視していく場所としていくかは、豊田市の検討に合わせて、実施していく。また、国交省が管理している区間については、定期的な横断測量の資料が出てきているが、県管理区間でも不定期でよいので調査できると、貴重な結果となる。(内田)
- 河川整備計画の策定に合わせて、測量調査を実施することになる。(森)
- 矢作川的环境について、どうなってきたかということがわかるものは、漁協から提示してほしい。(鷺見)
- 竜宮橋付近の河道掘削の影響で、久澄橋付近の河床が低下しているのではないかと話がある。(事務局)



### (3) 振り返り

- **よかったと思うこと**：漁協さんが現地にきてくださって具体的に話を聞くことができた。
- **よくなかったと思うこと**：漁協が議論に参加しなかったこと。/矢作川漁協の方に会議に出席して頂きたかった。
- **本川モデルの取り組み・アイデアなど**：白浜工区で維持管理手法につながる実験的試みをすべき。→樹木管理(自然発生柳の管理)/魚(生き物)の住む所、川遊びする場所、防災(洪水)対策場所のモデル場づくり。
- **質問など**：将来に向けて「矢作川のあるべき姿」をイメージ化して残していくことが「流域圏懇談会」のめざすところではないでしょうか。/アユが好む場所のメモがあれば数値化できるのでは。過去の記憶を数値化してはどうか？

## 今後の川部会 WG の予定

- 第20回(地先モデル)  
日時：平成26年8月29日(金) 13:00~18:00  
内容：現地確認活動団体ヒアリング  
(鹿乗川を美しくする会、鳥川ホテル保存会)

- 第21回(家下川モデル)  
日時：平成26年9月26日(金) 15:00~17:00  
内容：段差解消に関わる関係者との意見交換  
段差解消方法の検討







発行日：平成 26 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 20 回川部会WGを開催しました！

第 20 回川部会WGでは、今年度 1 回目の地先モデルの検討を行いました。半日、バスツアーで、岡崎市で活動している「鹿乗川を美しくする会」、「鳥川ホタル保存会」を訪問しました。

日時：平成 26 年 8 月 29 日（月）13:00～19:00

集合場所：愛知環状鉄道新豊田駅、JR 東海道線岡崎駅

調査場所：鹿乗川（鹿乗川を美しくする会）

岡崎市ホタル学校（鳥川ホタル保存会）

参加者：17 名（事務局含む）



### ◆WGでわかったこと・決まったこと

- 鹿乗川を美しくする会との意見交換では、活動に対する助成金が不足していること、活動時の安全性の確保などが課題になっていることがわかった。
- 鳥川ホタル保存会との意見交換では、ホタルのために、小さいながらも流域全体を良くしようと山や水に関心を持ちながら活動を続けていることがわかった。その結果として、ホタルが自然発生する環境が育っている状況を確認することができた。
- アンケート調査の事務局案は、若干の修正を加えて、概ね了解された。その調査結果をもとに、懇談会に関心のある団体と交流する機会を持てるとよい。
- 事務局で作成したリストをベースに、矢作川研究所に協力いただいて、リストを強化することとする。

### ◆主な意見交換内容（●意見 ▶回答）

#### 1. 鹿乗川を美しくする会との意見交換



岡崎市矢作川支所 1 F の会議室で、鹿乗川を美しくする会の江坂会長より活動内容や活動上の課題などの説明を伺い、意見交換を行いました。

- 昭和 59 年に矢作地域の 5 学区、37 町が集まってできたもので、主に以下の 3 つの活動を行っている。
  - ① 流域の草刈清掃活動（延長 5.2 km の左右岸において毎年 6 月に実施し、約 1000 人が参加。）
  - ② 流域の環境保全パトロール
  - ③ 用水路の清掃活動（春・秋の年 2 回）
- 手袋、お茶、パンなどの持ち出しの負担が大きい。また、草刈り機の油の補給の負担がある。
- H.25 年度に作業中に草刈り機取り扱い事故があったが、幸いにも軽傷で済んだ。今年度は、安全の徹底を図りながら実施した。



#### 【意見交換】

- 活動は、全て町会の負担で実施しているか。
  - ▶ 一斉清掃の活動費として一人当たり 250 円（県の河川愛護活動報奨金＋岡崎市の河川美化団体助成金＋明治用水の助成金）が支給されているが、町会によって異なるが、参加者には軍手やパン・飲み物を支給するのが一般的で、町会の持ち出しが多い。（鹿乗川を美しくする会）
  - ▶ 草刈り機の提供者には、別途支給しており、これも学区で異なるが、ガソリン代含めて 1000 円としているところが多い。（鹿乗川を美しくする会）



## 2. 「活動団体アンケート」と「専門家リスト」に関する意見交換（バス内で）



バス移動時間を利用して、地先モデルで検討を進めている「活動団体アンケート」と「専門家リスト」について、意見交換を行いました。

### 【意見交換】

- ・アンケート調査の事務局案は、若干の修正を加えて、概ね了解されました。
- ・アンケート結果をもとに、懇談会に関心のある団体を招待して、交流会を開催してはどうか。（本守）
- ・地先の課題を把握するためには、すでに流域圏懇談会に参加している団体に対しても、アンケートを実施してはどうか。
- ・事務局で作成したリストをベースに、矢作川研究所に協力いただいて、リストに上げるべき人物を選別し、所属等の情報を追加してはどうか。（内田）
- ・ノミネートの了解を得るために専門家に連絡する際、他の専門家を紹介いただけてはどうか。（本守）

## 3. 鳥川ホタル保存会との意見交換



岡崎市ホタル学校の教室で、鳥川ホタル保存会の松田会長より活動経緯・内容などの説明を伺い、意見交換を行いました。

- 昭和 30～40 年代に、河道改修や非常に強い農薬が出回り、ホタルは絶滅状態になっていた。
- 平成 6 年に「鳥川ホタル保存会」を発足し、徐々にホタルが復活してきた。訪れる多くの方に水や山に関心を持ってもらおうと、ホタルの里の山歩きコースなどを開催している。
- 地域として生きていくことになるには、地域内の連携、組織の強化はもとより、来訪者の思いを感じること、息づかいを活かしていくことが必要だと考えている。

### 【意見交換】

- ・ホタルだけでなく、ホタルが必要とする山や水を大事に育てているということに感銘を受けた。（本守）
- ・山歩きの道は延長も長いが、維持管理はどうしているか。（内田）
  - 他の団体にも呼びかけて、イベント前に登山道を整備している。中には、木を切ることに長けている山守り支援隊（主に岡崎市の方方で構成）がいて助かっている。（ホタル保存会）
- ・旧鳥川小学校の生徒はどこに行ってしまったか。（光岡）
  - 4.0km ほど下流の豊富小学校に行っているが、豊富小学校の校区は広がったため、時々活動に来てくれるがこれまでのようにはいかない。（ホタル保存会）
- ・ホタルは自然に発生しているか。（本守）
  - 学習のためや試験的にホタルを飼育しているが、ほとんどは自然発生している。川のごみ拾いや赤土をまいたりして、保護活動を続けている。（ホタル保存会）



説明の様子



資料室の様子



資料室の様子



散歩コースに設置するサイン



ホタル学校と鳥川

## 今後の川部会 WG の予定



### ■第 21 回（家下川モデル）

日時：平成 26 年 9 月 26 日（金）15:00～17:00

内容：段差解消に関わる関係者との意見交換、段差解消方法の検討

### ■第 22 回（本川モデル）

日時：平成 26 年 10 月 31 日（金）

内容：未定



### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。







発行日：平成26年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

### ◆第21回川部会WGを開催しました！

家下川ー承水溝ー長池（ひょうたん池）の状況や関連する各施設管理者の考え方を確認しながら、意見交換を行ない、段差解消に向けた課題と方向性について検討しました。

日時：平成26年9月26日（月）15:00～17:00

会議場所：豊田市職員会館3F 第1部室

参加者：19名（事務局含む）



### ◆WGで決まったこと

- 承水溝ー長池をつなぐゲートの位置づけや、承水溝周辺の所有者と管理者について、関係者により確認いただくこととする。
- 承水溝・長池・宗貞川付近の水位の連動性、長池の底の状況を把握することが重要であり、鷺見研究室で調査いただくこととする。
- 承水溝ー長池の段差を解消する方向性が望ましく、参考として水深20cmの確保を目指すこととした。
- 費用の制限がある中で承水溝を浚渫する場合に、承水溝全体に渡って部分的に深い場所を作る方法を提案する。
- 活動団体アンケートの内容は事務局に一任し、事務局提案の対象リストからもう少し対象を広げて実施することとする。

### ◆主な意見交換内容

（●意見 ▶回答）

#### 1. 段差解消の課題・方向性について

- 上郷排水機場の改修について事業採択を受け、今年度から来年度にかけて詳細な検討を実施していくこととしている。（松澤）
- 家下川下流は管理者が細かく分かれている。それぞれこの管理になっているか。（内田）
  - ▶ 家下川は、愛知県豊田加茂建設事務所である。（事務局）
  - ▶ 承水溝と上郷排水機場については、財産としては豊田市農地整備課、管理を土地改良区に委託していると聞いている。（松澤）
  - ▶ 長池については、柳ヶ瀬公園を管理している豊田市公園課と調整し、河川課の水面管理の中で対応することとした。（鈴木）
- 公園課に確認したが、整備時期が古く管理している図面はないということを確認した。これからの検討によって、どういう方向性があるか一緒に考えていきたいと思っている。（鈴木）
- 豊田市と岡崎市の市境もこの付近にあるようだが、承水溝と長池をつなぐゲートの管理者はだれか。ゲート整備するとき問題になりそうである。（光岡）
  - ▶ ゲートの位置づけや管理者について、持ち帰って確認したい。（鈴木）
- 調査時点では、承水溝側のブロックが置いてあるところで水位差はあるが、家下川入口付近はほぼレベルであった。（鷺見）
  - ▶ 家下川と承水溝の水位差が、平常時に20cm程度であるとすれば、定期的に降る雨があれば、魚は移動できると思う。そうすると、宗貞川樋門の敷高を下げる如果能够できれば、大きな意味があるのではないかと。（光岡）
  - ▶ ゲートの入口は、水の流れと平行になる区間をつくるなど、もう少し工夫できるとよい。（阿部）
- 樋門敷高が下がると、それと連動して長池の水位も下がってしまうのでは。（小澤）
- 長池などそれぞれの水位がわかっていないのが問題である。水位計を設置すれば、水位変化を把握することはできる。それによって、どれくらい敷高を下げるができるか。例えば、ある程度敷高を下げておいて、状況に合わせて、角落としのようなもので水位調整できるとよいのではないかと。（鷺見）
  - ▶ まずは鷺見先生のところで、長池の水位を調べて頂けるのであれば、基礎的なデータとして欲しいと思う。（内田）
- サイフォンのように地盤の中を浸透して、承水溝と長池の水位は連動していると思う。（阿部）
- 敷高を下げて段差は解消されても、水深の確保をどうするかという課題は残る。（光岡）
- 樋門は一体の構造物なので、底板だけを削るのは簡単にはできないと思う。（鈴木）
- 長池は、公園から流出する砂利と桜の落ち葉の堆積で川底がすぐに浅くなってしまふ。一度、浚渫をやってもらったが、1年も経つとすぐ埋まってくる。（阿部）



・過去の検討で水源の確保の問題があったが、承水溝から供給することも考えられるのでは。(光岡)

・水源が不足しているため、水質は悪化しているという問題もある。(阿部)

・池に流入する水量が常時確保されていれば、魚道を造るのも選択肢の1つになるかもしれないが、現状では水量はかなり少ない。(鈴木)

・排水機場の検討が遅れ気味なので、当初予定していた年末には報告できそうにないが、年度末には構想をお伝えできると思う。承水溝の浚渫は、その事業ではできないので、別途考える必要がある。(穴井)

・詳細の検討は年度末として、それまでの間に樋門の所有者や管理者について、もう一度、皆さん調べてほしい。(内田)

・承水溝、長池、宗貞川付近の3か所の水位がどの程度連動するか確認した方がよいので、その3点についてデータをとれるようにしたい。(鷺見)

・運転基準水位が18.4となっている。長池に逆流することもありうると思うが、ゲートを締める可能性はあるか。(小澤)

➢ ゲートの位置づけを改めて考える必要があるかもしれない。(鷺見)

・排水機場の改修と合わせて浚渫が難しいとしたら、生物の多様性を確保していくという方向性も考える必要がある。(事務局)

・事業で樋門をさわるとすれば、設計が固まってしまう前に、改めて意見交換していただけるとよい。(光岡)

・承水溝は掘っても、すぐ埋まってしまうかもしれないが、ポンプ場～宗貞川樋門間に、公園の土砂が溜まっており、浚渫が必要である。排水機場の手前に魚が集まっている状況で、水路入口までに部分的にでも深い場所があるとよい。(阿部)

➢ 費用の制限がある中で浚渫する場合、承水溝全体に渡って部分的に深い場所を作る方法とできればよい。(内田)

・せせらぎと承水溝を一体化することは考えられるか。承水溝周辺の所有者と管理者を調べておいてほしい。(内田)

・どんな材料が堆積しているのかもわかっていないので、調べられるとよい。(鷺見)

・将来的にどういう姿を目指すのかについては、考えておかなければいけない。これまでの話で、長池の水位を下げてでも、長池～承水溝の段差を無くした方がいいというのが皆さんの意向のように感じた。(内田)

➢ 長池の川底にも手を入れられるかどうか、また、公園の土砂流入についても考えておく必要がある。(鷺見)

・豊田市の公園課の方も一度来て、意見交換できると良い。(内田)

・長池の底が、固いところまで何cm程度あるか確認できるとよい。至急調査の段取りをしたい。(鷺見)

・流量が確保できるようであれば、魚道設置ということも考えられる。(内田)

・長池がどのくらいの頻度で水があふれるような状態になるか、わかるとよい。(小澤)

・平常の水位で、開口部の水深はどのくらい必要か。仮にでも皆で共有しておきたい。(鷺見)

➢ 魚の移動に関しては、一般的に体高の2倍確保が必要である。(事務局)

➢ 皆さんの意見から、参考として水深20cmを目指す方向としたい。(鷺見)



## 2. 活動団体アンケートについて



活動団体アンケートについて、事務局から説明を伺い、意見交換を行いました。

### 【意見交換】

・提案の活動団体以外に、もう少し下流側に活動団体はないか。(光岡)

・豊田市内に活動団体は多く、もう少し対象を広げた方がよいのではないかと。(内田)

➢ 市で把握しているものについては、事務局と調整したい。(鈴木)

・自治体からの助成金、制度などの実態を聞ける工夫をしてはどうか。(小澤)

➢ 活動をする上で、助けになっているもの・困っているものを教えてくださいという聞き方をしてはどうか。(鷺見)

➢ 今回のアンケートはなるべく簡単な質問で構成しており、いきなり細かい話をするとう構成されてしまうと考えている。(事務局)

・岡崎市からも、事務局へ活動団体の情報提供を行いたい。(竹田)

## 今後の川部会 WG の予定



### ■第22回(本川モデル)

日時：平成26年10月31日(金) 18:00~20:00

内容：久澄橋下流の瀬について

### ■第23回(地先モデル)

日時：平成26年11月14日(金) 13:00~18:00

内容：活動団体ヒアリング

## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。







発行日：平成 26 年 11 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 22 回川部会WGを開催しました！

第 22 回川部会WGでは、本川モデルについて、久澄橋下流の瀬などについて意見交換を行い、市民、活動団体、学識者、行政など背景の異なる参加者により、白熱した議論がなされました。

日 時：平成 26 年 10 月 31 日（金）18:00～20:00  
会議場所：豊田市職員会館 2F 第 1 会議室  
参加者：23 名（事務局含む）



### ◆主な意見交換内容 (・意見 ▶回答)

- 河道横断測量、縦断測量結果より、鵜ノ首付近の河道掘削の影響は、39.0k～39.4k 付近の瀬に影響はしていないと考えられる。
- 39.4k（瀬付近）の河床が低下し、瀬が失われつつある。漁協では、川の営力で瀬を作れるか検討している。川自身が川の営力で瀬・淵を作ること、復元するためにどうすれば良いかということを考えて欲しい。現状を修復する必要がある。
- 一方、原因はわかっていないので、モニタリングをして見ていく必要がある。
- 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の設立について報告を受けた。矢作川を良くしていこうとする方向性は流域圏懇談会と同じであり、情報共有しながら検討を進めていくこととした。

#### 1. 久澄橋下流の瀬について



鷺見先生より、久澄橋下流の地形の現状・測量結果について、説明を伺いました。

- 溝筋の縦断測量、横断測量の結果から、久澄橋下流は、瀬淵の変化が水没している状況であるが、交互砂州のような地形の凹凸が見られる。
- 調査した区間の水位は、ほぼフラットで 30.2 程度。
- 最近の国交省が実施した鵜ノ首付近の河道掘削の影響があるとすれば 37.6～37.8k 位までで、それより上流には伝播していないと考えられる。
- 39.0k 付近に淵があり、近年の地形変化がない中で、39.4k（久澄橋付近の瀬があるところ）の河床は低下傾向にあるため、注意する必要がある。



#### 【意見交換】

- ・長年、川を見続けてきているが、河床が少しずつ下がっていることは事実である。川は、本来、土砂や碎石を生産するところである。事実として、瀬が消失しており、瀬、淵、砂州のリズムが崩れ、川が不健康な状態になってしまっている。もっと、川を生命体として見る必要があるのではないかと。(木戸)
- ・様々な土木施設が耐震対策を実施しているが、明治用水もダムも自分たちの構造物の延命化のみを図っているのではないかと。(木戸)
- ・河床低下しない方法で、通水断面を確保する方法を探すべきではないかと。(木戸)
- ・先ほど、鷺見先生から説明があったので理解したが、国交省の河道掘削工事の影響で、久澄橋下流の瀬がなくなったと、一般的には考えてしまう。(木戸)
  - ▶ 瀬がなくなってきたのは、最近のことであり、河道の変化を長い目で見るべきではないかと。(事務局)

#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



- 過去に設置された人工構造物の影響は、整備当初は目立つことはないが、近年、加速度的に川が悪くなっている状況が見える。例えば、高橋の工事は、7~8年かかる。その間に瀬淵が壊れたなら、やはり、治療する必要があるのではないか。仁淀川の瀬の回復工事の事例があるように、川を生物として治療してもらわないと川はもたない。(木戸)
- ・横断的な掘削は、必ず縦断的な影響があると考えた方がよい。(木戸)
- ・瀬をどのように回復させるか、人工的に瀬をつくるのは難しいのではないかと。(本守)
  - 漁協では、川の営力でいかに瀬を作れるか検討している。川自身が川の営力で瀬・淵を作ること、今、復元するためにどうすればよいかということを考えてほしい。原因は追及してほしいが、現状を修復する努力もしてほしい。(木戸)
  - 出口をはっきりさせて、どういうモニタリングをやるか決めた方がよい。(鷺見)
- ・九州では、瀬を回復させるための事業をやっていると聞く。九州地方整備局から事例を取り寄せてはどうか。(木戸)
  - 分散式落差工については、継続的に調査していきたい。(事務局)



## 2. 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会について



矢作川研究所早川所長より、豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会について、説明を伺いました。

- 10月17日に検討委員会を立ち上げ、豊田市を流れる矢作川を対象とし、葵大橋~越戸ダムを重点検討区間としている。
- 平成27年度末を目標に活性化プランを策定していきたい。
- 矢作川の現状をまずは知ってもらうために、第1回を開催し、現状と課題を整理した。第2回検討委員会では、課題の評価を行い、矢作川カルテを作成する予定。27年度には、あるべき姿を追求し、あるべき姿に向けた対策工の検討を行う予定。



### 【意見交換】

- ・検討委員会と懇談会の両方で情報共有しながら、矢作川をよくしていきたい。(碓)
  - 目標は一緒だと思うので、情報共有しながら、是非一緒に検討できればと考えている。(碓)
  - まちづくりの視点から矢作川を見るという委員会であり、この懇談会とは趣きは異なる。(木戸)
- ・ヒートアイランドの視点は、これまで懇談会の検討の中では全くなかった。検討委員会の資料は、我々が検討していく上でも、勉強になる資料である。(内田)
- ・矢作川の支川も対象にしているか。(本守)
  - 支川の連続性という意味では対象に入っている。(早川)
- ・河川だけで洪水を処理するには限界があり、流域の土地利用をどう制限するか、また、例えば風の流れを考えると、河川沿いには、高い建物を建てないといった方向性が考えられる。(早川)

## 3. 振り返り



**よかったと思うこと：**久しぶりに議論になってよかった。/漁業の人が来てくれたこと。/矢作川漁協の方が加わったことで、活発な議論が行われていた。/鵜の首橋の掘削が久澄橋の下の瀬の消失とは関係がなかったこと。漁協さんの矢作川の生の声を聞いてさまざまな問題があることがわかったこと。/実際に工事を行っていく人、その場所のデータを集めている人、昔からのその場をよく知っている人の意見が聞けたので、いろいろな方面から1つの問題について考えることができたこと。/縦断測量の結果から問題点がより明確になったため、その地点の研究をしっかりと行える。/難しいが、立場の違う人がそれぞれの望むことを聞いてよかった。

**よくなかったと思うこと：**論点がずれていることが多かった。/結論を先送りにしたこと。/モニタリング調査は、期間が設定してあれば理解いただけたのではないかと思います。/河床低下が止まらず、具体的な対策が見つからない。/専門の方がそろっているからこそ、それぞれの主張が目立つ話し合いとなってしまったこと。河川は、昔と今では利用のされ方が少しずつ変わってきていると思うので、そのときに合った計画を立てて、その時に一番良い状態をつくれればよいと思いました。昔の状態が今現在に合うとは限らないと思うので、もっと前向きな今後の話をしていくといいと思いました。/最終的にどのような状態で終着し、どのような方法でそれに持っていくのかを考えるべきであった。/議論がかみ合わないところがある。それぞれの立場が、せっかく学生の方の出席もあったので、もっと若い人の意見を引き出す議論があったらよかった。

**家下川モデルの取り組み・アイデアなど：**分散式落差工

**質問など：**瀬を復元できても、瀬を維持することができるのか。

## 今後の川部会 WG の予定



### ■第23回(地先モデル)

日時：平成26年11月14日(金)13:00~18:00  
 内容：活動団体を訪問  
 ・青木川を守り美しくする会  
 ・梅坪水辺愛護会

### ■第24回(本川・家下川・地先モデル)

日時：平成26年12月22日(月)  
 内容：各モデルのまとめ





# 矢作川流域圏懇談会通信(案)

H26 川部会編 vol. 7



発行日：平成 26 年 11 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 23 回川部会WGを開催しました！

第 23 回川部会WGでは、今年度 2 回目の地先モデルの検討を行いました。岡崎市で活動している「青木川を守り美しくする会」、豊田市で活動している「梅坪水辺愛護会」を訪問しました。

日時：平成 26 年 11 月 14 日(金) 13:30~16:50  
集合場所：愛知環状鉄道 大門駅  
調査場所：常磐学区市民ホーム(青木川を守り美しくする会)  
豊田市職員会館(梅坪水辺愛護会)  
参加者：13 名(事務局含む)



## ◆主な意見交換内容 (・意見 ▶回答)

### 1. 地先モデルアンケート結果の報告

バス移動中に、事務局より地先モデルアンケート結果の報告の報告がありました。その中で「家下川を美しくする会」の伊奈氏より、活動上の課題を伺いました。

- 主な活動内容は、家下川の中の草刈り、竹を切ったりゴミを拾ったり、遊歩道は広場をつくったりしている。
- 草刈り機をしようするため燃料費がかかり、活動費が不足している。
- 斜面の草刈り大変に対して行政の協力がほしい。
- 役員の若手不足。町や市を動かすためにも、町内会長など力のある人をメンバーに入れたい。

#### 【意見交換】

- ・行政の協力とは、国、県、市などか。(事務局)
  - ▶ 国や安城市と豊田市にお願いしている。(伊奈)
- ・切った竹はどうするのか。(事務局)
  - ▶ どんど焼き用に 300 本くらいを使って、残りは小学生の竹馬にもして全部使う。笹はゴミとして岡崎市の環境部のごみ対策課に取りに来てもらう。河川課から環境部にお願いしてもらっている。(伊奈)

### 2. 青木川を守り美しくする会との意見交換

常磐学区市民ホームで、「青木川を守り美しくする会」の中根氏より、活動内容や課題などを伺い、意見交換を行いました。

- 常磐小学校では、環境学習で青木川を勉強の場にしてもらい、常磐中学校では、環境美化活動と地域奉仕活動として青木川の清掃に参加してもらっている。
- 主な活動内容は、ゴミ拾いは草刈り、青木川沿いに桜を植樹したり、5 月初旬頃にアユを放出、8 月のアユ釣り大会で子どもたちに青木川に関心を持ってもらおうとしている。
- 清掃活動は、6 月に小、中学校の青木川の草刈りとゴミ拾い、7 月末に滝町住民総出の青木川の草刈り、最近では任意で 11 月初旬に青木川のゴミ拾いをした。
- 役員の若手不足。町や市を動かすためにも、町内会長など力のある人をメンバーに入れたい。

#### 【意見交換】

※青木川：青木川を守り美しくする会のメンバー

- ・課題や活動の問題はあるか。(事務局)
  - ▶ 青木川の汚濁の問題は家庭排水だと思う。今は新しく家を建てられるときは合併浄化槽にするが、それ以前に建てられたところの家庭污水はそのまま川に流れてしまうので、その点が問題である。(青木川)
- ・第二東名、ゴルフ場、酪農家の尿尿、家庭廃水が問題あるということか。(事務局)
  - ▶ 酪農家が 2 軒あり、なるべく汚水を流さないようお願いしているが、雨が降ると沈殿槽の水がオーバーして、川に流れることがある。(青木川)
  - ▶ 今年は川の色が茶色になってあまりよくなかったが、問題がはっきりしなかった。第二東名の工事で白濁水が流れてきて、沈砂池から漏れている部分があったので善処してほしいと施工業者をお願いするなど発生毎にやっている。(青木川)
  - ▶ 新築は合併浄化槽だが、昔からあるところは単独浄化槽で生活排水が出る。酪農家については、市が指導もしており今は問題ないと思う。(岡崎市)



- 地質的にマンガンがあり、ゴルフ場の調整地などが黒っぽい時もある。マンガンは有害物質には入っていない。農業関係は抜き打ちで年2回は行って、1度も問題だったことはない。(岡崎市)
- ・草刈りの範囲はどれくらいの延長か。
  - 天王橋～バイパス近くの橋区間の2kmくらいである。70台くらいの草刈り機で刈る。(青木川)
- ・費用はどこから出なのか。
  - 市と県からの補助が、活動費の3割くらいである。残りは町内会から出している。(青木川)
- ・常磐地区13町全体でやるのか。(事務局)
  - 滝町の420軒の98%くらい、一軒に一人くらい出ただいて奉仕活動をしている。(青木川)
- ・刈った草はどうしているのか。(事務局)
  - 町で出るものは膨大になるので、その対応が今後の問題である。アルミ缶、ペットボトルなどのゴミは市にお願いするが、草は大変な作業になるため、市には要望していないのが現状である。(青木川)

### 3. 梅坪水辺愛護会との意見交換



豊田市職員会館で、「梅坪水辺愛護会」の大野氏より活動経緯・内容などの説明を伺い、意見交換を行いました。

- 現役世代が中心になっており、30～50歳代の若い世代が中心となる30人で活動しているが、以前より人数が減少しており、後継者が不足している。
- 河川敷の草刈り、ゴミ拾い、冬場は竹林の手入れを中心にしている。消防署に届け出をして、その場で河川敷の中で焼却処分している。矢作川のところに細長く800mくらいの竹林があるが、最近はなかなか手入れができない。
- 豊田市のわくわく事業補助金で必要な機材を確保してきた。しかし、わくわく事業はいつまで続くかわからないし、地域で割り振られているため申請しても補助されない可能性があるため、形で機材の保障があると安心して活動できると思う。豊橋市河川課と連携しているから報奨金があるため、消耗品などの購入に使用している。
- ゴミの不法投棄の問題があり、ほとんどがバーベキューのゴミである。網やいすをそのまま捨てていく人がいる。
- 河川敷の草や竹林の中などには、タイヤやオートバイなどが捨てられていることもある。きれいにしているところには捨てにくいのか、バーベキュー以外の不法投棄ゴミは減っている気はする。
- 河川敷駐車場の車止めのカギを壊したり、チェーンを切断されるなどの問題が、年2、3回発生する。
- 出水で高水敷に水が上がることによって河川敷が水没してしまうことがあり、土が変わって、昔は砂地で生えにくかったが、今は肥沃になって草が生えやすくなっている感がある。

#### 【意見交換】

※梅坪：梅坪水辺愛護会のメンバー

- ・そもそもなぜこの場所を草刈りをする必要があるか。(山本)
  - ゴミの不法投棄の問題がある。バーベキューをする人も増えたので、地域で活動する中で、水辺にもう少し手入れをしようと、水辺愛護会の活動を始めた。(梅坪)
- ・会費はあるか。各回の参加者は何人程度か。(菅原)
  - 会費はなく、報奨金で賄っている。大体半分の15人程度が参加するが、基本的にはボランティアでやっているから大変。(梅坪)
- ・ゴミの不法投棄は、どうしているか。(山本)
  - 豊田市の自治振興課に電話すると、不法投棄ゴミを回収してくれる。(光岡)
  - 市の河川課に連絡すると後日、業者がやってきて回収してくれる。(梅坪)
- ・河川ゴミの対策は何かしているか。(事務局)
  - 看板を立てる程度。河川パトロールで通ってもらうようにもしている。(豊田市)
- ・1日の活動時間はどれくらいなのか。(菅原)
  - 2～3時間程度。朝8時から10時までの予定にしているが、草が多いと結構時間がかかる。(梅坪)



### 今後の川部会 WG の予定



- 第24回(本川・家下川モデル)  
日時：平成26年12月22日(月)  
内容：矢作川の土砂の問題について  
これまでの活動のとりまとめ

- 第6回川の地域部会  
日時：平成27年1月16日(金)  
内容：今年度の活動成果報告について  
来年度の活動計画について



#### ◆お問合せ◆

##### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。







発行日：平成 26 年 12 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 24 回川部会WGを開催しました！

第 24 回川部会WGでは、矢作川水系における総合土砂管理、及び今年度の活動の取りまとめについて、意見交換を行いました。

日 時：平成 26 年 12 月 22 日（月）18:00～20:00  
会議場所：豊田市職員会館 2F 第 1 会議室  
参加者：23 名（事務局含む）



### ◆主な意見交換内容 (・意見 ▶回答)

- 矢作川水系における総合土砂管理の検討状況についてわかりやすく説明いただき、情報共有することができた。
- 今後、ダム堤体上流からの土砂流下方法の検討事例・成果について情報収集が必要であり、小渋ダムや美和ダムなど総合土砂管理の先進地域を視察することも一案である。
- 矢作川水系における総合土砂管理について、今後も情報提供いただきながら、意見交換を重ねていくこととする。
- 今年度の活動の取りまとめ方、来年度に取り組む活動の方向性については了承された。地域部会までにメーリングリストで配信し、WGメンバーで確認する。

### 意見交換



- 出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

#### (1) 矢作川水系における総合土砂管理について

矢作川水系における総合土砂管理について、豊橋河川事務所丹羽課長より説明があり、その後、意見交換を行いました。

- ・一番下まで土砂が流れていくのが理想的ということについて、いろんな所からの声があるのか。(光岡)
  - ▶ ダムがない時代がよかったという意見もあれば、砂だらけの河口だったという悪い意見もある。かつての矢作川のイメージは、人によって様々である。今の環境より昔の良かった頃の矢作川を目指すという理念については合意ができしており、もう少し矢作川全体に土砂が必要であるという方向性は確認している。(事務局)
- ・美和ダムの場合、下流の高速ダムの制約があるため、大きな粒径の土砂を流すことができず、ウォッシュロードを流すことになっている。(山本)
- ・資料 2p.12 について、現在でも全流入土砂量を処理できているように見えるが、これは処理方法の割合を示すものである。各ステージは、何年程度を想定しているか。(山本)
  - ▶ 具体的には決まっていないが、事業化を考えた時に、1ステージ3年程度で、概ね 10 年で成果が出ることを想定している。(事務局)
  - ▶ 流入土砂が、30.9 万 $m^3$ と考えればよいか。(光岡)
  - ▶ 近年の流入土砂量は年間 10 万 $m^3$ くらいであり、図は年間流入量の配分と考えてもらいたい。これまで掘削して外にしていた土砂を、なるべく川の営力を使って、下流に流したいというイメージである。(事務局)
- ・江戸時代初期から約 60 年間で、山が荒れたせいなどで河床が 4~5m 上がったという記録がある。昭和 40 年以降は砂利採取などもあって、急激に河床低下が進行し、現在の河床は江戸時代初期の河床に戻ったのではないか。どの時代の状態がいいかは難しいが、土砂供給があり過ぎても問題ではないか。(小澤)
  - ▶ 人によって意見も異なる。かつての砂ばかりの矢作川の姿に戻るのがよいのか、ある程度生態系にも配慮したものがよいのか、ご意見をいただきながらいい矢作川の環境をつくっていききたい。(事務局)
- ・同じ流量でよりたくさん流したい。理想であるが、実験してみないとわからない。土砂流下を止めるタイミングを間違えない実験と、どれだけの土砂を含ませてどの流量で流しても大丈夫かなどの実験を行いたいということだと思う。(鷲見)
- ・大きな礫をうまく流す必要がある。(本守)
  - ▶ 粒径を分けて、どういうふうにも流れるかも課題であり、段階的に調べていきたい。(事務局)
- ・ウォッシュロードはイメージしやすいが、砂や礫は流化する途中で止まる。瀬淵・ワンドが必要ということであれば、それに必要となる粒径はどのくらい大きいか。川の領域に土砂が流れすぎると、どれだけの障害が起こるのか。情報不足ではあるが、粒径ごとの議論もしなければならない。どれだけの生産があるべきかについては検討しているか。(鷲見)
  - ▶ 河床変動モデルで検討しているが、結果であって、目標量ではない。(事務局)



- ・この資料では礫は 2 mm 以上に設定していると思うが、マサの粒径は 1 cm 程度まで入ると思う。2 mm 以上の粒径をどう捉えるかも課題である。ウォッシュロード、浮遊砂、掃流砂の3つの違う移動形態の現象を計算している。大きい石は、確かに移動距離は少ない。(鷺見)
  - 流下させる土砂量を急激に変化させるのは難しい。少量から始めて、どれくらいの粒径なら問題ないかなどそれぞれ把握していく。(事務局)
- ・一次元のシミュレーションは、川の断面を単純化して計算するもので、200m ピッチ程度の断面しかなく、さらに単純化して計算する。そのため、土砂収支は正しく計算するが、土砂の堆積について精度を高くすることは難しい。一方、精度が上がる二次元、三次元の計算は、時間が非常にかかる。現段階での理想のプロセスは、盆地の区間や下流の交互砂州の区間を取り出して、現場でどんなことが起こるか、ローカルにシミュレーションできればよいが、計算条件すら十分に把握できていない状況である。ローカルな議論と全体の議論を考える必要がある。(鷺見)
  - 平面二次元の計算もできるが、お金と時間が相当かかる。精度の高い計算はピンポイントではできるが、上流から海までを計算するのは厳しい。(事務局)
  - 部分的にできればよく、そのために境界条件を観測して明確にする必要がある。(鷺見)
- ・洪水で河道にストレスを与えたり、上流ダムでの堆積を解決する試みを、10 河川くらいで検討し、10 年分くらいの成果はあると思う。その結果を知りたい。(本守)
- ・美和ダムの考え方を踏襲する限りは、成功は難しいと思う。中小洪水などで、ある程度自然に似た状態で土砂を流さないで、解決しないのではないかと。この近辺で一度見学に行ってみてはどうか。(本守)
- ・河口付近では、希望の土砂の粒径などはあるか。自然に流下する土砂だけでは、相反することはあるかもしれない。懇談会の中で、議論がまだ十分ではない。(光岡)
- ・他の人間にとっての機能(利水、発電など)もあるので、それぞれの条件を考えなければならない。(鷺見)
  - 基本方針を p.9 に記載しているが、土砂を流すことによって、治水機能を損なうようなことになると河川管理者として問題である。ちょうどいい程度のところを模索しているが、なかなか難しい。地元の人やこういった場などで議論してあるべき姿を出していただければありがたい。(事務局)
- ・今は、ステージ1ということによいか。(内田)
  - まだ始まっておらず、手前の実験段階である。(事務局)



## (2) 今年度の活動の取りまとめについて

### 今年度の活動の取りまとめ、来年度に取り組む活動について、事務局より説明がありました。

- ・瀬淵・ワンドの評価カルテについては、国交省の水辺の国勢調査の調査シートをベースとして使えるので、資料提供いただきたい。様々な情報が入っているので、低水路の情報に限定してあるとよい。(内田)
- ・総合土砂管理などの先進地域を視察してはどうか。小渋ダムや美和ダムなどがある。(本守)
- ・美和ダムは、ウォッシュロードのみの対策でお勧めしない。(内田)
- ・矢作川漁協との意見交換の内容を今年度の活動報告に記載していただきたい。(内田)
- ・今年度の活動のとりまとめと来年度の活動については、地域部会までに、メーリングリストなどで配信いただき、事前に皆さんに確認いただけるように段取りいただきたい。(内田)

## (3) 振り返り

**よかったと思うこと：**土砂について現状の動きのイメージがつかめた。/川部会で、土砂について今後を検討すべきことの概略が見えた。/土砂バイパストンネルの効果によって、河川がどうなっていくかを知れたこと。/取組みについてよくわかった。/鷺見先生の説明がとてもわかりやすかった。

**よくなかったと思うこと：**本来の矢作川が人それぞれ違うため、どの状態の矢作川に戻せば良いかを検討しなければならない。/専門用語が多くてわかりにくかった。/時間を多くしたり、他の多くの人に参加してもらいたい。/総合的な土砂管理において、礫、砂、シルトの大きさの区分がわからないままだったこと。/土砂供給方法を説明する図がわかりにくい。

**来年度、取り組んでいきたい活動など：**各ポイントにおける土砂の理想形を描くべきである。そのための将来的な活動の展望は、さらにその先にあると思う。/外来生物について。

**質問など：**クレンジング効果とは、具体的にどのような効果か。/目指すべき矢作川の姿を最初に決めなくてよかったのか。いつの頃の矢作川を目指すのか。

## 今後の流域圏懇談会の予定

- 第6回川の地域部会 日時：平成 27 年 1 月 16 日 (金)  
内容：今年度の活動成果報告、来年度の活動計画について



## ◆お問合せ◆

### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

